

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																													
札幌医療秘書福祉専門学校		昭和62年12月24日		中村 淳		〒 060-0042 (住所) 北海道札幌市中央区大通西18丁目1-8 (電話) 011-641-0865																													
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																													
学校法人三幸学園		昭和60年3月8日		屋間 一彦		〒 113-0033 (住所) 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-6151																													
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
商業実務	商業実務専門課程	診療情報管理士科		平成20(2008)年度	-	平成27(2015)年度																													
学科の目的	「世の中の困難を希望に変える」をミッションとし、学校教育法に基づき、医療従事者として各業界に従事しようとする者に必要な、実践的かつ専門的な知識、技能を教授することによって、明日の医療業界を担う人材を養成することを目的とする。																																		
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な資格・検定: 診療情報管理士・医療事務検定1~2級・医療秘書技能検定1~3級・医事コンピュータ技能検定2~3級・電子カルテ実技検定・がん登録実務初級者認定試験・IT/バスポート・施設基準管理士認定試験 他 令和4(2022)年度中退率: 0%																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																											
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間 93 単位	単位時間 65 単位	単位時間 52 単位	単位時間 3 単位	単位時間 0 単位	単位時間 0 単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)																															
120 人	95 人	0 人		0 %																															
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>25</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>24</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>23</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>23</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>96</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>92</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>就職・進学以外: 1名 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 病院・クリニック</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: - 受審年月: - 評価結果を掲載したホームページURL: -</p>							■卒業者数(C)	25	人	■就職希望者数(D)	24	人	■就職者数(E)	23	人	■地元就職者数(F)	23	人	■就職率(E/D)	96	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	100	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	92	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業者数(C)	25	人																																	
■就職希望者数(D)	24	人																																	
■就職者数(E)	23	人																																	
■地元就職者数(F)	23	人																																	
■就職率(E/D)	96	%																																	
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	100	%																																	
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	92	%																																	
■進学者数	0	人																																	
■その他																																			
当該学科のホームページURL	https://www.sanko.ac.jp/sapporo-med/course/healthinfo/																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>120 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>3 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>12 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>1 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位</td></tr> </table>							総授業時数	単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間	うち必修授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間	総授業時数	120 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	3 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位	うち必修授業時数	12 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	1 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位
総授業時数	単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間																																		
うち必修授業時数	単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間																																		
総授業時数	120 単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	3 単位																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位																																		
うち必修授業時数	12 単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	1 単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>17 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>8 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>26 人</td> </tr> </table> <p>上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数: 6 人</p>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	17 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	8 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1 人	計	26 人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	17 人																																		
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	8 人																																		
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																		
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																																		
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1 人																																		
計	26 人																																		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他、教員としての資質・能力の育成に必要な研修に関する事項等

またより正確に業界における動向や求められる人材要件を把握するため、就職・実習先企業や業界団体、資格・検定団体等と関係性を深め、幅広く連携を図ることで、業界の求めるニーズを確実に捉え、本校のカリキュラムや授業内容に反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意思を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するに相応しい教育課程の編成を協力して行うものとして位置づけている。

具体的には、審議を通じて示された教育課程編成に係る意見を基に、副校長および各校教務チームによって教育課程およびシラバスの改善素案が作成され、医療分野専門委員会(別紙組織図:各専門委員会)にて提案される。

提案に基づき、医療分野専門委員会にて審議の上、次年度の教育課程およびシラバスに改善内容が反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
濱田 朋里	社会医療法人 禎心会 札幌禎心会病院 診療情報管理室 課長	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日(2年)	②
久保 博文	医療法人 王子総合病院 診療録管理センター 副センター長	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日(2年)	③
中村 淳	札幌医療秘書福祉専門学校 校長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	-
斎藤 政臣	札幌医療秘書福祉専門学校 副校長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	-
水尾 有菜	札幌医療秘書福祉専門学校 副校長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	-
菅野 義己	札幌医療秘書福祉専門学校 教務主任	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年6月30日 14:20～15:20

第2回 令和5年2月21日 16:20～17:10

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会にていただいた以下の意見について対応を行っている。

- ・学ぶことが複雑なため、実習前に現場を知る機会を設けた方が良いとご助言をいただいたため、1年次に見学実習を設けた。
- ・ITリテラシーやセキュリティ管理等の必要性についてご意見をいただき、教育課程「ITパスポート」の導入や、ITリテラシー取得のための選択授業を導入した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校のカリキュラムの一環として医療機関実習を導入しており、実習を通して医療現場及び医療業務の実際を体験し、知識の習得度の確認と実践、現場で実際に患者様、職員様とのコミュニケーション、対応力を学ばせて頂くことを目的としている。3週間の実習期間を設定し、可能な限り長期間で医療現場での経験を積ませて頂くことで、仕事の緊張感、厳しさのみならず、充実感や遣り甲斐を見出すことでその後の学習意欲の向上と積極的な就職活動へ繋げて行くことを狙いとしている。

改めて現場実習の狙い、目的を以下の通り記載する。

- ① 学校で履修した知識、技術を医療機関において確認するとともに、医療従事者としての自分自身を問い直す機会とする。
- ② 医療機関における医療従事者の職務内容の理解と、医療現場の仕組みや体制を把握し、自らの社会的役割と責任を学ぶ。
- ③ 職員様との関わり、患者様とのコミュニケーションを実体験し、社会人としての対応力を高める。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

診療情報管理士科2年次後期にて3週間の医療機関実習。予め実習を受諾頂いた医療機関において、診療情報管理士業務である、データ分析、カルテチェック、統計表作成や、秘書業務として受付業務、レセプト計算業務、電話対応業務等の各医療機関に定められた医療事務業務、その処理能力、対応能力の現状把握と向上に努める。期間中は医療機関側に教育指導を依頼し、業務姿勢への指導、実践業務への教育を頂き、指定期間終了後は実習評価として、『基礎・能力』、『生活態度』、『実習態度』を4段階で評価を頂くこととしている。

評価項目の詳細は次の通りとする。

『基礎・能力』:基礎能力(保険・医療事務・医学等に関しての基礎的な知識、学力は有しているか)

応用能力(指示された内容が良く把握され、工夫して仕事が出来たか)

事務実務能力(事務能力が上手くでき、計画的、創意的に仕事が出来たか)

『生活態度』:あいさつ(基本的なあいさつができていたか)

マナー(社会的なマナーが正しく守られており、折目正しい生活態度がある)

コミュニケーション(周りとのコミュニケーションを図り積極的に取り組んでいたか)

『実習態度』:勤務態度(実習時の勤怠、研究心があり、熱意は見られたか)

身だしなみ(正しい服装ができ、爪、髪型などの清潔な印象を相手に与えたか)

日誌等の提出物(レポート・日誌等を毎日克明に記載し期日を守って提出していたか)

患者対応の態度(患者様の身になって不愉快な思いをさせないよう対応していたか)

以上の評価を確認しながら、本学担当教員についても学生の現状の習熟度と課題を明確に以降においての学習に努められるよう、実習期間前後の打合せ巡回訪問を重ねながら連携を図っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
診療情報管理士病院実習Ⅰ 診療情報管理士病院実習Ⅱ	医療機関の現場を知ることで、学内の学習以外にも必要な知識・力があるということを理解する。 自分たちが将来進むべき業界の理解と今後身につけるべき知識を理解し、今後の就職・学習につなげる。	札幌厚生病院、札幌中央病院 市立札幌病院、JR札幌病院 市立千歳市民病院、北海道循環器病院 札幌禎心会病院、札幌東徳洲会病院 天使病院、北海道脳神経外科記念病院 北海道大野記念病院、西岡病院 イムス札幌消化器中央総合病院、北成病院 函館新都市病院、手稲溪仁会病院 華岡青洲記念病院、札幌真駒内病院、 北斗病院、北光記念病院 札幌徳洲会病院、北海道大学病院 札幌ハートセンター札幌心臓血管クリニック 愛心メモリアル病院、札幌北楡病院 札幌白石記念病院

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

実践的かつ専門的な職業教育を実施し、『相手のこうして欲しいを理解し、自ら行動できる人材』を育成していくためには、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、以下の通り教員研修の環境を整える。

- ・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修
- ・指導力の修得・向上のための研修

なお、当該研修等を計画的に教員に受講させるあたり諸規定に定められている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 今後の診療情報管理士養成に大切な事 連携企業等： 日本病院会

期間： 令和4年8月19日（金） 対象： 教員約20名

内容 必要とされる診療情報管理士とはどのような存在かを確認し、学生時代に見つけるべき点を知る

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 発達障害やその周辺を考える 連携企業等： 心理オフィス奏

期間： 令和4年8月23日（火） 対象： 全教職員 約70名

内容 発達障害の特性を理解し、学校の中で起きやすいトラブルに対してどのような対応が可能か考える

研修名： 人の心を動かす方法とは 連携企業等： 株式会社リアルディア

期間： 令和4年10月29日（日） 対象： 全教職員 約50名

内容 これからの社会人に求められることを踏まえて、学生へ分かりやすく教える上で大事なことは何か

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 現場が学校教育現場に期待すること 連携企業等： 医療法人徳洲会葉山ハートセンター

期間： 令和5年8月22日（火） 対象： 教員約20名

内容 現場の実態と学校と連携して学生を育てるためにできること

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 子どもの成長を支える 連携企業等： 心理オフィス奏

期間： 令和5年9月22日（金） 対象： 全教職員 約70名

内容 メンタルヘルスの原則を知った上での学生との関わり方実践。また事例共有。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、関連分野の業界関係者及び卒業生、地域に根差した関連企業と共に、学校関係者評価委員会を設置して、教育目標や教育について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする。

学校関係者評価は、「専修学校における学校評価のガイドライン」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「実施することを基本方針とする。また評価結果は学校のホームページで公表し、委員会で得られた意見についてはすみやかに集約し、各業務担当者にフィードバックすることで、学校運営の改善に生かすものとする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

各項目ごとに話し合われた評価をまとめ、改善点について「短期・中期・長期」の視点より分類し、短期目標についての改善点について検討した上で、検討内容について次回学校関係者評価委員会へ提出することとする。またすぐを実施できる事は教職員に共有して実施していく。

具体的には頂いた意見から、以下の対応を行っている。

- ・コロナも落ち着き、見学やボランティアを受け入れる施設・病院が増えているため、早い段階で業界を理解させるために、学校として機会を設ける提案を頂き、各学科見学会を実施した。
- ・業界を支える人材の確保について今後も現場と共に注力していきたいとお話をいただき、改めて職業の魅力を伝えられるようボランティア活動や高校への模擬授業等をより力を入れて行った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
笹田 直人	社会福祉法人禎心会 法人本部	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	業界関係者 有識者
高田 基秋	市立千歳市民病院	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	業界関係者
濱田 朋里	社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	業界関係者
薄井 智也	社会医療法人耳鼻咽喉科 麻生病院	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	業界関係者 有識者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.sanko.ac.jp/sapporo-med/disclosure/2023/docs/kankeisya.pdf>

公表時期: 令和5年8月9日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則って情報提供を行うことを基本方針とし、以下の姿を目指す。

1. 学校の指導方針や課題への対応方法等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につなげること。
2. 入学希望者やその保護者に対し、進路選択に当たっての有用な情報を提供するとともに、一人ひとりの能力・適性にあった望ましい進路の実現に資すること。
3. キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習・就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげること。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標および計画
(2) 各学科等の教育	学科概要、カリキュラム、シラバス、客観的な指標の算出方法、卒業要
(3) 教職員	教員数、組織、専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み、実習実技への取り組み
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事
(6) 学生の生活支援	生活上の諸問題への対応
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、就学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.sanko.ac.jp/sapporo-med/disclosure/>

公表時期: 令和5年5月30日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 診療情報管理士科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			○	基礎看護学Ⅰ	医学の基本である解剖学・生理学の基礎知識を理解する。	1年・前期	60	4	○			○			○	
			○	基礎看護学Ⅱ	医学の基本である解剖学・生理学の基礎知識を理解する。	1年・後期	30	2	○			○			○	
			○	基礎看護学Ⅲ	病院で働く者が知っておくべき医療用語や略語とその意味を正しく理解し、医療従事者として医師、看護師、その他のスタッフと円滑にコミュニケーションをとりながら業務を行うための知識を身につける。	1年・後期	15	1	○			○			○	
			○	疾患学Ⅰ	学んだ人体のしくみを基礎に、疾病の成り立ちや診断(検査)、治療法を内科・外科の両面より習得する。	1年・後期	30	2	○			○			○	
			○	ビジネスマナーⅠ	サービス接遇、秘書業務の学習を通じてビジネスマナー全般の知識を習得する。医療事務員として働くにあたり必要となる接遇・マナーを身につける。	1年・前期	30	1	○			○			○	
			○	ビジネスマナーⅡ	サービス接遇、秘書業務の学習を通じてビジネスマナー全般の知識を習得する。医療事務員として働くにあたり必要となる接遇・マナーを身につける。	1年・後期	30	1	○			○			○	
			○	医事CP・電子カルテ基礎Ⅰ	医療事務コンピュータの役割、必要性を理解する。医療事務で学んだ診療報酬算定の知識を基に医事CPを用いて正確な算定技術を習得する。	1年・前期	30	1	○			○			○	
			○	医事CP・電子カルテ基礎Ⅱ	医療事務コンピュータの役割、必要性を理解する。医療事務で学んだ診療報酬算定の知識を基に医事CPを用いて正確な算定技術を習得する。電子カルテ入力的基础を習得する。	1年・後期	30	1	○			○			○	
	○			医科医療事務AⅠ	点数表を読み内容が理解でき、様々な算定に対応できる力を習得する	1年・前期	60	2	○			○			○	
	○			医科医療事務BⅠ	点数表を読み内容が理解でき、様々な算定に対応できる力を備えさせる。	1年・後期	60	2	○			○			○	
	○			医科医療事務AⅡ	カルテ内容を理解し、正確にレセプト作成が出来る力を備えさせる。	1年・前期	60	2	○			○			○	
	○			医科医療事務BⅡ	カルテ内容を理解し、正確にレセプト作成が出来る力を備えさせる。	1年・後期	60	2	○			○			○	
			○	医療秘書概論Ⅰ	病院実習に役立ち、就職後には即戦力となる医療事務員の知識の習得。	1年・前期	30	2	○			○			○	
			○	医療秘書概論Ⅱ	病院実習に役立ち、就職後には即戦力となる医療事務員の知識の習得。	1年・後期	30	2	○			○			○	

48			○ 診療情報管理Ⅱ	診療情報管理士の専門性について理解し、医療に貢献する診療情報管理士を実践していくための能力の基礎を身につける。診療情報管理を実践する場で用意に想起され、応用可能な基礎知識を習得する。	2年・前期	18	1	○		○	○								
49			○ 診療情報管理Ⅲ	DPC・医師事務作業補助者・がん登録の実務を学ぶ。	2年・後期	18	1	○		○	○								
50			○ 診療情報管理士対策Ⅰ	基礎分野の復習を行い、診療情報管理士認定試験に必要な知識を身につける。	2年・前期	30	1	○		○	○								
51			○ 診療情報管理士対策Ⅱ	基礎分野の復習を行い、診療情報管理士認定試験に向けて対策を行う。	2年・後期	30	1	○		○	○								
52			○ 基礎看護学Ⅳ	病院で働く者が知っておくべき医療用語や略語とその意味を正しく理解し、医療従事者として医師、看護師、その他のスタッフと円滑にコミュニケーションをとりながら業務を行うための知識を身につける。	2年・前期	15	1	○		○	○								
53	○		医科医療事務演習Ⅰ	現場で必要となる法規関連知識や点数表の読解スキル、介護保険の知識を習得をする	2年・前期	30	1	○		○	○								
54	○		医科医療事務演習Ⅱ	現場で必要となるレセプトチェック知識、介護保険の知識とレセプト作成スキルを習得する	2年・後期	30	1	○		○	○								
55			○ 医事CP・電子カルテ応用Ⅰ	1年次に身につけた医療事務コンピュータの役割、必要性を更に理解する。医療事務コンピュータを用いた算定技術を習得する。電子カルテ、DPCの入力技術を理解する。	2年・前期	30	1	○		○	○								
56			○ 医事CP・電子カルテ応用Ⅱ	医療事務コンピュータを用いた応用の算定技術を習得する。電子カルテ、DPCの入力技術を理解する。	2年・後期	30	1	○		○	○								
57			○ パソコン実務Ⅲ	多くあるWORD、EXCELの機能を学び、場面によって必要な機能を選択できるようになる パワーポイントの操作を学び、自分の研究や考えを表現できるようになる	2年・前期	30	1	○		○	○								
58			○ パソコン実務Ⅳ	多くあるWord、Excelの機能を学び、場面によって必要な機能を選択できるようになる PowerPointの操作を学び、自分の研究や考えを表現できるようになる	2年・後期	30	1	○		○	○								
59			○ プレゼンテーション技法Ⅰ	就職活動時に自分をPRする力を身につける。	2年・前期	30	1	○		○	○								
60			○ プレゼンテーション技法Ⅱ	就職活動時に自分をPRする力を身につける。	2年・後期	15	1	○		○	○								
61			○ 医療秘書検定対策	1年次に学んだ基礎医学（解剖生理・疾患学）を基礎として、関連教科と連携しながら疾病の成り立ちや診断、治療法を学び、知識を習得する。	2年・前期	15	1	○		○	○								
62			○ 医療秘書検定特講Ⅰ	1年次に学んだ基礎医学（解剖生理・疾患学）を基礎として、関連教科と連携しながら疾病の成り立ちや診断、治療法を学び、知識を習得する。	2年・前期	30	1	○		○	○								
63			○ 医療秘書検定特講Ⅱ	前期に学んだ基礎医学（解剖生理・疾患学）を基礎として、関連教科と連携しながら疾病の成り立ちや診断、治療法を学び、知識を習得する。	2年・後期	30	1	○		○	○								
64			○ 医療事務研究特講Ⅰ	現場に必要な知識の到達地点とされる認定試験や、医療秘書検定2級・診療報酬請求事務能力認定試験に合格する知識を身につける。	2年・前期	30	1	○		○	○								

65		○	医療事務研究特講Ⅱ	現場に必要な知識の到達地点とされる認定試験や、医療秘書技能検定準1級に合格する知識を身につける。	2年・後期	30	1		○		○		○					
66		○	がん登録実務対策	がん登録初級者認定試験の合格を目指し、病院内のがん患者の情報を登録する際に必要な知識を身につける	2年	30	1		○		○							○
67		○	DPC実践	医療事務コンピュータのシステムを使用して様式1などの作成するための知識や技術を身につける	2年	15	1	○			○							○
68		○	業界理解AⅡ	診療情報管理士になるためには何を学ぶべきかを理解する。 就職活動に向けて実習で何を学んでくるのかを理解する。 実習を通して社会人に必要なことを身につける。	2年・前期	15	1	○			○							○
69		○	業界理解BⅡ	診療情報管理士になるためには何を学ぶべきかを理解する。 就職活動に向けて実習で何を学んでくるのかを理解する。 実習を通して社会人に必要なことを身につける。	2年・後期	15	1	○			○							○
70	○		診療情報管理士病院実習Ⅰ	医療機関の現場を知ること、学内の学習以外にも必要な知識・力があるということを理解する。 自分たちが将来進むべき業界の理解と今後身につけるべき知識を理解し、今後の就職・学習につなげる。	2年	40	1				○		○	○				○
71		○	診療情報管理士病院実習Ⅱ	医療機関の現場を知ること、学内の学習以外にも必要な知識・力があるということを理解する。 自分たちが将来進むべき業界の理解と今後身につけるべき知識を理解し、今後の就職・学習につなげる。	2年	80	2				○		○	○				○
72		○	人体構造・機能論	診療情報管理士に求められる人体構造および機能に関する基本的な医学的知識を理解する。 認定試験の基礎分野で頻出される重要知識を習得する。	3年・前期	18	1	○			○							○
73		○	医学・医療用語	①医療用語の成り立ち・接頭語・接尾語を理解する ②各医療用語を習得する	3年・前期	18	1	○			○							○
74		○	医療統計Ⅱ	①病院統計および疾病統計の知識を習得する。 ②情報化の手段として基本的なグラフ表現と実際に求められる病院統計の手法を学ぶ他、単なるテクニカルな面に終わることなく、データを扱う上での研究方法や倫理についての知識を習得する。	3年・前期	18	1	○			○							○
75		○	診療情報管理士受験対策ゼミA-I	基礎分野の復習を行い、診療情報管理士認定試験に向けて対策を行う。	3年	30	1		○		○							○
76		○	診療情報管理士受験対策ゼミA-II	基礎分野の復習を行い、診療情報管理士認定試験に向けて対策を行う。	3年	45	3	○			○							○
77		○	診療情報管理士受験対策ゼミA-III	基礎分野の復習を行い、診療情報管理士認定試験に向けて対策を行う。	3年	60	2		○		○							○
78		○	診療情報管理士受験対策ゼミA-IV	基礎分野の復習を行い、診療情報管理士認定試験に向けて対策を行う。	3年	60	2		○		○							○
79		○	診療情報管理士受験対策ゼミB-I	専門分野（分類以外）の復習を行い、診療情報管理士認定試験に向けて対策を行う。	3年	30	1		○		○							○
80		○	診療情報管理士受験対策ゼミB-II	専門分野（分類以外）の復習を行い、診療情報管理士認定試験に向けて対策を行う。	3年	45	3	○			○							○

81		○	診療情報管理士受験対策ゼミ B-III	専門分野（分類以外）の復習を行い、診療情報管理士認定試験に向けて対策を行う。	3年	60	2		○		○		○						
82		○	診療情報管理士受験対策ゼミ B-IV	専門分野（分類以外）の復習を行い、診療情報管理士認定試験に向けて対策を行う。	3年	60	2		○		○		○						
83		○	診療情報管理士受験対策ゼミ C-I	専門分野（分類）の復習を行い、診療情報管理士認定試験に向けて対策を行う。	3年	30	1		○		○		○						
84		○	診療情報管理士受験対策ゼミ C-II	専門分野（分類）の復習を行い、診療情報管理士認定試験に向けて対策を行う。	3年	60	2		○		○		○						
85		○	パソコン実務 V	データベースの考え方、Excelなどの重要度の違い、また一つのミスが致命傷となり全体へ影響することを学ぶ。Accssの操作はもとより「慎重な操作」を重視することを学ぶ。	3年・前期	30	1		○		○							○	
86		○	パソコン実務 VI	データベースの考え方、Excelなどの重要度の違い、また一つのミスが致命傷となり全体へ影響することを学ぶ。Accssの操作はもとより「慎重な操作」を重視することを学ぶ。	3年・後期	30	1		○		○							○	
87	○		医科医療事務演習 III	DPC算定と出来高算定を比較し診療報酬を学ぶ	3年・前期	30	1		○		○		○					○	
88		○	Drクラーク演習	医師、医療従事者、病院、患者様とよりよい信頼関係が築け、円滑なチーム利用を展開できるように、医師事務作業補助者として必要な、様々な知識を習得する。	3年・通年	30	1		○		○							○	
89		○	施設基準管理	施設基準管理士の資格取得を目指しながら、病院の施設基準を総合的に管理、運用する専門知識とスキルを身につける	3年・通年	15	1	○			○								○
90		○	業界理解AIII	①自分が希望する就職先から内定を頂くために何が必要かを知る ②社会人に必要な心構えやマナーを理解する ③診療情報管理士認定試験に合格するために必要な勉強法について理解する	3年・前期	15	1	○			○								○
91		○	業界理解BIII	①自分が希望する就職先から内定を頂くために何が必要かを知る ②社会人に必要な心構えやマナーを理解する ③診療情報管理士認定試験に合格するために必要な勉強法について理解する	3年・後期	15	1	○			○								○
92		○	メディカルマネジメント論 I	医療機関の経営がどのような仕組みで成り立っているかを学びながら、経営が成り立つためのサポートや知識を身につける	3年・前期	30	1		○		○								○
93		○	メディカルマネジメント論 II	医療機関の経営がどのような仕組みで成り立っているかを学びながら、経営が成り立つためのサポートや知識を身につける	3年・後期	15	1	○			○								○
94		○	経営戦略基礎 I	事業を経営するために必要な戦略や手法などを学び、実際に医療現場で経営のサポートをするために必要な知識を身につける	3年・前期	30	1		○		○								○
95		○	経営戦略基礎 II	事業を経営するために必要な戦略や手法などを学び、実際に医療現場で経営のサポートをするために必要な知識を身につける	3年・後期	15	1	○			○								○
96		○	医療IT A I	医療現場で使用されているITの新しい技術や手法に関する知識や経営全般に関する知識などを身につけ、ITパスポートの資格取得を目指す。	3年・前期	30	1		○		○								○
97		○	医療IT A II	医療現場で使用されているITの新しい技術や手法に関する知識や経営全般に関する知識などを身につけ、ITパスポートの資格取得を目指す。	3年・後期	15	1	○			○								○

98		○	医療IT B I	医療現場で使用されているITの新しい技術や手法に関する知識や経営全般に関する知識などを身につけ、ITパスポートの資格取得を目指す。	3年・前期	30	1		○		○			○
99		○	医療IT B II	医療現場で使用されているITの新しい技術や手法に関する知識や経営全般に関する知識などを身につけ、ITパスポートの資格取得を目指す。	3年・後期	15	1	○			○			○
合計						99 科目		120 単位 (2721単位時間)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	本校に修業年限以上在学し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に、卒業の認定を行う。 卒業に必要な単位数は科目配当表に示すとおりとする。	1学年の学期区分	2期
履修方法：	原則として教育課程に定められている順序で履修する。 『診療情報管理士病院実習Ⅱ』は必履修とする。	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。